



一般質問

佐々木 常子 議員

質問の
ねらい

安心・安全の当別町に！

移動手段がなく通院等に困っている高齢者がいる。デマンドバスでカバーできない高齢者へ支援が必要である。広い当別町に住むには、運転免許はなかなか手放せない。運転寿命が伸びるよう高齢者に寄り添った

政策も必要ではないか。また、昨今は大雨による被害が多発している。当別町でもいつ起こるか分からない。コロナ禍で避難訓練ができない状況が続いているが、啓発活動など今できることをすべきでは。

ここが
聞きたい

高齢者の移動支援

問 移動手段がなく通院等に困っている高齢者がいる。デマンドバスでカバーできない地域の高齢者にも支援が必要では。

答 デマンドバスの運行エリア拡大、訪問診療や往診の充実、買い物サポートの充実など、移動支援は高齢者支援全般に関わる課題であるため、今後、総合的に調査研究を進めていく。



ふれあいバス

ここが
聞きたい

運転技能や認知力の向上

問 運転寿命を延ばすため、脳のトレーニングにより運転技能、認知力、活力を向上させる「運転技能向上トレーニングアプリ」を町として導入しては。

答 すでに複数の類似アプリが無料で利用できるため、町で導入や活用をする予定はない。運転寿命を延ばすことよりも、車の運転ができなくても、快適に暮らせるまちづくりを目指していく考え。

ここが
聞きたい

町独自のサポカー補助金

問 運転に不安を感じる高齢者への支援として、後付けできる「ペダル踏み間違え急発進等抑制装置」を町で補助しては。

に開設している、認知機能、記憶力、危険察知などのトレーニングができる無料ウェブサイトについて周知するとともに、国にサポカー補助制度の継続や充実について要請していく。

答 町としては、日本自動車連盟が高齢運転者向け

ここが
聞きたい

自助・共助・公助の備えを

問 コロナ禍で避難訓練もできない状況が続くが、災害はいつ起こるか分からない。町としては態勢の確認やシミュレーション、町民に対する啓発などが必要ではないか。

答 感染状況を見極めながらにはなるが、避難経路などを確認する図上訓練、防災マップを教材とした講習会、災害対策本部運営訓練など、各種防災事業が実施できるよう準備を進めている。

ここが
聞きたい

支援を実効性のあるものに

問 災害時の避難支援を実効性のあるものとするために、個別避難計画の作成が有効とされている。行政が中心となって、要支援者の個別避難計画作成を進めるべきでは。

答 作成手順等に苦慮する自治体が多く、全国的に進んでいないと聞く。町も同様に、コロナ禍で進める上で、いくつかの課題整理が必要。今後、国の説明会などを参考に、早期作成に取り組む。

一般質問

山田 明 議員



質問の
ねらい

庁舎建設と市街地活性化の取り組みは

多くの町民が関心を寄せる役場新庁舎建設に関連し、検討委員会の検討状況、民間施設活用など、その後の進捗はどうなっているか。また、第8期高齢者保健福祉計画で課題となっている在宅医療の拠点となる高

齢者専門医療機関の誘致の可能性や、除排雪体制の見直しと強化に向けて町はどのように取り組むのか、町内会や環境整備組合との連携をどのように図るのか伺う。

ここが
聞きたい

検討委員会の進捗状況は

問

新庁舎建設検討委員会では、建設コスト圧縮の議論もされているが、事業推進にはさらなる工夫や今までとは異なる発想も必要と考える。6月定例会以降の検討委員会の進捗状況は。

答

8月に第2回委員会が行われ、昨今の経済状況を鑑み、庁舎規模縮小についても議論された。駅前の人の流れや賑わいのため、規模の適正化を図り、適切な場所への建設が必要と考えている。



当別駅前大通

ここが
聞きたい

駅前の民間ビルの活用は

問

当別駅前に建設予定の民間ビルの活用について、具体的に検討したいと以前答弁があったが、その後の進捗は。町としては今後どのように進めていく考えか。

答

以前、中心市街地活性化の一貫として、民間ビルへの図書館機能導入も良策ではと答弁したが、賛同いただけるプランだろうと考えている。ビルのスケジュールもあり、早急に結論を出したい。

ここが
聞きたい

駅前中心市街地の活性化は

問

新庁舎建設は、現在の社会情勢や限りある財源の中でも、公民連携や新たな発想の下で、中心市街地の活性化につなげる施策として進めるべきと考えるが、町長の見解は。

答

民間施設との連携を含めて都市機能を適切に配置し、エリアの機能を高めることが活性化につながると考えているので、町のランドデザインを俯瞰したトータル的な施策となるよう努める。

ここが
聞きたい

第8期高齢者保健福祉計画

問

第8期計画の中に、訪問診療や往診の実施に向け、在宅医療の拠点となる医療機関の誘致を進めるとあるが、現時点で計画期間の令和5年度までに誘致できる可能性はあるのか。

答

現在、訪問診療ができる医療法人の開業準備が進んでおり、順調にいけば令和5年度の開業となる。在宅医療に強みを持つ法人なので、町内介護事業所との連携強化も期待している。

ここが
聞きたい

除排雪体制の見直しと強化

問

以前、除排雪について、人員不足解消、効率良い作業のための発注方法を検討すると答弁があったが、現在の進捗は。

答

人員増については、除雪業者が排雪も協力する

等の対応を協議して決めた。発注方法については、除雪と排雪を分けると、人員や設備の面で作業遂行が難しくなり、コストも大幅増となるなどの課題から、継続して研究することとした。



一般質問

鈴木 岩夫 議員

質問の
ねらい

子育てにやさしい町で移住促進を

札幌市や江別市に先んじて、入院は平成28年8月より18歳年度末まで無料、通院は令和2年8月より小学校卒業まで初診時一部負担のみで受診可能とした。現在、子育て世帯の移住が進んでいる。「子育て

にやさしいまち」という住民の実感
は移住者にも伝わり、いずれ住みたいまちへと広がる。今こそ「子育てにやさしいまち」という住民の実感を高めるため、子ども医療費助成拡大に踏み切る時ではないか質した。

ここが
聞きたい

子ども医療費助成の拡大を

問 以前、子どもの医療費助成が移住促進の誘因となるようにしなくてはいけないとの答弁があった。今まさに子育て世帯の移住が進んでいるので、通院費も高校卒業まで拡大すべきでは。

答 子育て世帯が住み続けたいと思うポイントとして、育児負担軽減は重要な施策。この助成はその一つ。現在、人口増に向けて検討しているが、より効果的な施策を見極めて総合的に判断したい。

ここが
聞きたい

改良型ワクチンの接種は

問 第6波、第7波の反省を踏まえ、新型コロナウイルス対策の強化が求められている。町では、オミクロン株に対応した改良型のワクチン接種は、いつから、どのような内容で始められるのか。

答 ファイザー社のオミクロン株B.A.1型対応ワクチンを10月1日から使用する。対象者は2回接種済みの12歳以上である。町の広報やHP、公式LINE等のSNSで周知している。

ここが
聞きたい

町としての取り組みは

問 8月、国から肥料価格高騰対策事業の案内が出された。実情に即した制度運用や必要な予算の確保が求められる。国や道の肥料価格高騰対策の着実な実施のため、町はどのように取り組むか。

答 7月から町独自の対策事業を実施。農業者からもありがたいとの声をいただいている。今後の国や道の事業は、町ではなく農協経由や個人申請となるため、申請忘れがないよう周知に努める。



当別町の水田

ここが
聞きたい

弔意を求めるべきでない

問 旧統一教会との癒着が明らかとなった安倍晋三氏への国を挙げての賛美に反対の声が上がっている。国から要請されても、弔意を求める通知はすべきでない考えだが、町長、教育長の考えは。

答 町に国から指示などはないが、弔意を示すのは自然なこと。国葬に合わせ、役場庁舎のみで半旗を掲げ弔意を示す。町教委も、国の決定に沿って地方自治体に対応するのは自然と考えている。

ここが
聞きたい

調査する考えはあるか

問 旧統一教会と政治の癒着問題が、国だけでなく地方まで波及していることに国民の怒りが広がっている。町長及び町、町関連団体について、旧統一教会との関係を調査する考えは。

答 町長も町も当該団体とは一切関わりがないと認識している。私を町長として応援くださる方の個別情報は持ち合わせていない。現段階では、調査が必要とは考えていない。

一般質問

五十嵐 信子 議員



質問の
ねらい

当事者に寄り添い早期検討を

地域包括支援センターは高齢者の総合相談窓口として設置しているが、どこに相談すれば良いか迷う人も少なくない。高齢者目線に立って、地域包括支援センターに愛称を設定すべきと質した。また、近年、前立

腺がん・膀胱がん・前立腺肥大などの病気でおむつや尿漏れパッドを使う人が増えているため、その方々への配慮について質した。さらに、障がい児送迎について、せめて冬場だけでも負担を軽減すべきと質した。



地域包括支援センター窓口（ゆとろ）

ここが
聞きたい

覚えやすい愛称と工夫を

問

地域包括支援センターは、保健師や福祉専門職が配置され、高齢者の総合相談窓口として設置されている。相談窓口として覚えやすい愛称や窓口がどこにあるか分かりやすく工夫すべきでは。

答

地域包括支援センターが全国的に浸透していると考えているので、現時点で愛称設定の予定はない。窓口の見た目については、引き続き工夫し、分かりやすい表示や周知に努めていく。

ここが
聞きたい

男性用トイレに配慮を

問

膀胱がん等患者には尿漏れパッド着用者が多いが、男子トイレにサニタリーボックス（汚物入れ）がなく、持ち帰らなければならない人が多くいる。公共施設の男子トイレにも設置すべきでは。

答

ゆとろの男性用個室に一部設置済みである。他の公共施設についても、施設の実情に応じて、サニタリーボックスの設置を検討していく。



サニタリーボックス（ゆとろ）

ここが
聞きたい

障がい児送迎支援の充実を

問

保護者は、特に冬の送迎に神経を使い、緊張の毎日を送っている。以前、支援について具体的に検討し始めているとの答弁があったが、現在の進捗状況は。

答

養護学校のバスや町独自の送迎バスは活用が困難。現状、町ができるのは移動支援拡充となるが、町外通学者に限定や一部自己負担設定など、費用や支援条件について引き続き検討していく。



福祉車両（本人提供）



一般質問

櫻井 紀栄 議員

質問の
ねらい

ここで子育てをしたいと思える町へ

商業地域にある未使用の土地の適切な開放が経済活動につながる。都市機能をしっかりと集約し、土地や施設を利活用すべきと考え、使われていない旧公民館や利用がない公園の今後の取り扱いについて伺った。

さらに、子育てが楽しいと思える育児環境になるように、産後ケア事業のガイドラインを超えて、すべての妊産婦が助産師によるケアを選択すべきと考え、今年度から始まった産後ケア事業について伺う。

ここが
聞きたい

空き店舗の現状把握は

問

商店街はシャッターが閉まったままのお店も多い。活性化に向けて、空き店舗の状況把握が必要。店舗を手放したいのか、持っておきたいのかなど、事業者にはアヒリングは実施しているか。

答

持ち主、商工会、不動産業者と情報交換し現状把握に努めている。店舗併設の住宅であり貸せない人が多いが、貸す、売る意思を持つ人もいる。個々の事情を聞き、どう活用するか検討が重要。

ここが
聞きたい

公園整備で遊具の配置を

問

小規模公園が多い分、設置遊具はとても古く、なかなか更新されない。安全面でも不安を多く感じる。阿蘇公園やライラック公園よりも小さい公園の遊具整備の予定はあるのか。

答

遊具はどのような整備が良いかなどを含めて、公園の在り方については、幅広く地域と協議して今までやってきた事実があるので、その方針に沿って今後も続けていく。

ここが
聞きたい

産後ケアの対象月齢拡大へ

問

出産後1年を通じてメンタルヘルスケアの重要性が高いとされており、近隣市町村においても、対象月齢が生後4か月から1歳まで拡大されてきている。町も対象月齢を拡大しては。

答

他市町村の状況や委託先の助産師との情報交換により、4か月経過後もさまざまな要因で支援が必要な人がいると聞いているので、今後、対象期間の延長について検討していきたい。



産後ケア対象拡大へ検討を

ここが
聞きたい

助産師派遣で行政と連携を

問

産後ケアに関わる相談は、半ば義務である健診時が最適で、新生児訪問や乳幼児健診へ助産師を派遣できれば、必要なタイミングで対象者をつなげられる。健診等への助産師派遣を検討しては。

答

新生児訪問や乳幼児健診等への助産師派遣は、これまでアンケート等でも要望がなく、町としては現段階で必要性があると認識していないため、派遣は考えていない。

ここが
聞きたい

今後の旧公民館の使い方

問

旧公民館は、毎年、除排雪費を含めた維持管理費が発生。他の施設に備品を移動して、解体する検討はしているか。

答

解体を前提としつつも使っている状況。効果的な解体費用の捻出を含め検討中。使用に必要な費用はかけていく考え。

【その他の主な質問項目】

妊産婦へのアンケート実施状況、産後ケア事業の利用状況と周知方法 など

一般質問

秋場 信一 議員



質問の
ねらい

どうする？まち再生と公共施設

太美地区が新駅開業に伴い活性化されていく一方、本町地区は駅南側の商業地域で、廃業による空き家や廃止した公共施設が増え空洞化が進んでおり、まちなか再生の課題となっている。現在、新庁舎建設の議

論が進んでいるが、今後の公共施設は「にぎわいある街づくり」に積極的に関わっていくべきと考え、それらの課題解決についてや、持続可能なまちづくりについて、除排雪問題も含めて質した。



現在の役場庁舎

ここが
聞きたい

商業地空洞化と新庁舎

問

公共施設は、当別駅北側にまとめて建てられた時代と異なり、空洞化が進む南側や中心地の再生を考え立地すべき。役場新庁舎との複合化を含めて、まちづくりにどのように関わっていくか。

答

新庁舎建設検討委員会では新庁舎への複合化にこだわらず、分散配置の考えも議論されている。今後のまちづくりを見据え、公民連携を意識しつつ、新庁舎の機能と配置について検討していく。

ここが
聞きたい

利用広がる除雪機貸与

問

町内会への除雪機貸与について、大きく評価しているが、雪置場の確保、除雪機の管理、使用条件など、昨年度の試行から今年度の本運用までの間、どのような課題があったか。

答

除雪機は無償貸与としたが、保管場所確保や燃料費など運用上の手間や費用について、町と町内会の負担の在り方が課題だったが、実施した町内会からは概ね支障はなかったと確認している。



町内会に貸与された除雪機

ここが
聞きたい

除排雪への空き地活用

問

中心市街地では、雪捨て場として空き地の利用を求める声も聞く。もしかすると雪を置いてもいいという地主がいるかもしれない。雪捨て場として提供可能な空き地などの調査はしているか。

答

空き地活用は、除排雪作業を行う上で大変有効と認識。既に当別環境整備協同組合が、空き地の所有者と協議し、必要に応じて利用している。また、空き地調査も図面上などでやっている。

ここが
聞きたい

物価高騰！経済対策を

問

冬に向け各業界から値上げが発表され、町の経済への影響が懸念されている。町独自の支援策も求められると考えるが、プレミアム付き商品券などの経済対策を実施する考えはあるか。

答

現在の物価高騰は、国民生活全体に影響する問題。国が対策を打つべきと考える。商品券事業等の町単独実施は非常に厳しい。町としては、国に対して地方への経済対策について要望していく。



一般質問

佐藤 立 議員

質問の
ねらい

子どもが群れて安全に遊べるまち

6月の一般質問で子どもにやさしいまちの全体像と町の施策の関連について質問し、当別町の各種施策や町長が掲げているチャイルドフアーストと子どもにやさしいまちが、概ね同じ方向を向いていることを確認

した。今回は、「子どもだけで、群れて、安全に遊べる」まちをキーワードに、子どもにやさしいまちを形作る具体的な項目について、今後の実現の可能性と課題を明らかにする。

ここが
聞きたい

子どもの活動の拠点施設

問 放課後、子どもたちが集まれる公共施設がない。総合体育館ロビーや図書館、コミュニティーセンターの空き部屋を、子どもが予約なしで集まれて相談や活動ができる場所として開放しては。

答 要望があれば場所や時間を割り振りして対応している。図書館では学習スペースが不足した場合、他の部屋の利用を可としており、総合体育館では無料開放日等で子どもに便宜を図っている。

ここが
聞きたい

合同部活動の移動支援

問 とうべつ学園と西当別中学校の合同部活動が始まったことに伴い、生徒がふれあいバスで移動する機会が増えている。これら生徒のふれあいバス運賃の負担軽減を検討しては。

答 4つの部活動で拠点校方式を採用しており、頻繁な移動を伴うため、各家庭に負担が生じていると認識。移動支援について、国の補助制度も注視し、制度設計や財源確保など研究を進める。

ここが
聞きたい

デジタルツールの導入

問 学校への持ち込みルールを整理しなければならぬが、GPS機能付きの子ども向け腕時計型携帯電話など、子どもの居場所を確認できるデジタルツールの購入補助制度を設けては。

答 子どもの居場所確認について、校内では学校が責任を持って行うが、学校外の行動は保護者の責任においてなすべきことでもあるため、それに対する補助は今のところ考えていない。



デジタルツール（本人提供）

ここが
聞きたい

子ども 110 番の家

問 子ども 110 番の家について、通学路再編に併せて見直すとともに、公園など子どもの遊び場周辺でも依頼しては。また、悪天候時の避難や電話貸し出しなど協力内容の拡充も検討しては。

答 現在の学区に即した見直しができなかった。今後は子どもの利用が多い施設周辺に協力を求めるなど現状に合うよう整備する。内容も見直し、地域で子どもの安全確保に取り組んでいく。

ここが
聞きたい

子育てガイドブックの地図

問 遊びに行く時に持ち歩く地図として利用できる。今後は子ども 110 番の家や公衆電話、公園遊具の状況を掲載しては。フリガナを振ると子どもや外国籍の方にもより分かりやすくなるのでは。

答 毎年、利用者の声を聞いて改定している。次年度も利用者や議員の意見も参考にして、地図だけでなく、その他の内容も検討を加え、より利便性の高い子育てガイドブックを目指していく。

一般質問

山崎 公司 議員



次のページは

議案の審議結果

本会議では多くの報告や議決が行われました。

質問の
ねらい

子育て世代へのさらなる支援を

町内の出生数はKPI^{※1}の90人に対し、ここ5年間は50名を下回り、ピーク時の200人に比べても4分の1以下である。結婚や妊娠・出産、子育て世代支援について、これまで以上に力を入れるよう質した。次に、

物価高騰対策として、燃料購入費助成、水道料金の限定的な減額などを提案した。最後に、町のSDGsの取り組みとして、脱炭素に向けた再生エネルギー・省エネルギーの推進について質した。

ここが
聞きたい

学校給食費の無償化を

問 当別町の給食費は全国平均より2割程度高い状況。無償化は実現できないか。全員は無理でも、第2子半額、第3子無料というような検討の余地はないか。

答 無償化は少子化対策、移住促進に一定の効果が期待できるが、予算確保等の課題もあり、今、無償化する状況にはない。人口増加に向けた横断的な検討の中で、総合的に検討されると考える。

ここが
聞きたい

人口増加に向けた取り組み

問 人口増加には、自然減少社会減少の両方への対応が重要。定住人口増加のために、出産祝い金の支給や町外へ通学する学生への交通費支援など、もう一歩踏み込んだ対策が必要ではないか。

答 妊娠・出産サポートなど新たな子育て支援の取り組みを重ね、令和3年度は平成11年度以来の社会人口増となった。さらなる人口増に向け、より効果的で魅力ある施策立案に取り組む。



給油している様子

ここが
聞きたい

原油や物価高騰対策を

問 昨今の物価高騰により町民生活に大きな支障が出ている。さらに当別町は札幌市などに比べ、水道料金が約50%高い。燃料購入費の補助や、限定的な水道料金減免などを実施しては、

答 現在の物価高騰は、国民生活全体に影響する大きな問題。国が適切な対応を打つべきと考えている。町としては、今後の国の動向を注視しつつ、必要な対策を検討していく。

ここが
聞きたい

SDGsの取り組み

問 省エネルギー推進など脱炭素に向けた取り組みについて、町内事業者や個人が脱炭素の暮らしを実現するための具体策はあるのか。

答 省エネへの理解を深めてもらうため、エネチャレンジ事業や広報などによる啓発を行っている。今後も2050年のゼロカーボン達成に向けて、省エネを積極的に推進していく。



省エネを意識した生活を

【その他の主な質問項目】

灯油を使用しない世帯、自動車を所有しない世帯への町内で利用できる商品券の提供 など

※1 KPI…重要業績評価指標。当別町まち・ひと・しごと創生総合戦略の目標達成度を計るための数値指標のこと。